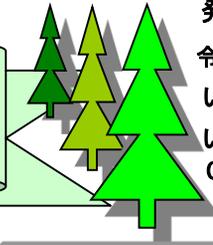


街路樹



国語科の授業改善の視点と実践例紹介



特別支援教育の充実に向けて

より深い理解へ誘う導入の在り方について、いわき市立平第一小学校 鹿目邦博先生の令和5年度の実践から紹介します。

〈単元名〉

中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう。
 (『世界にほこる和紙』国語4下 光村図書)

〈本時の目標〉

要約に必要な語や文について考えることを通して、筆者の目的に合った中心となる語や文を適切に選ぶことができる。

学習の見通しをもつ

T:リーフレットを作る時って、書かれていることすべて載せるの？



C:要約すればいいと思います。

T:前の時間に勉強したけど、要約って何？

C:短くするけど、大事な言葉なんかは残しておきます。

T:みんなはこの文章の要約で何を伝える？

C:和紙の魅力です。

授業者が教材本文から選んだ文をつなぎ合わせただけのモデル文の提示

T:この要約文で和紙の魅力は伝わる？

C:(「伝わる」「伝わらない」「よくわからない」という反応)

T:どうすればこの要約文が伝わるようになるのか、みんなで考えていきましょう。

「要約」について、概念レベルの知識にとどまる児童に対して、モデル文を提示し、筆者の目的に思考を焦点化させることで、児童たちは学習の見通しをもって、必要な情報を見つける学習に取り組みました。

自分の考えをもつ

学習内容や学習方法を振り返る

授業の詳細は総合教育センター研修動画をご覧ください。
 Google Classroom「令和5年度 調査研究委員会授業実践」→「授業」→「国語」

※「令和6年度いわき市教職員研修計画」(ピンク色の冊子)p.80参照

特別支援教育とは、一人一人の教育的ニーズを把握しそれに応じた適切な教育をすることです。簡単に言ってしまうと一人一人の凸凹を把握し、それを生かす教育だと考えます。

かつて静岡県のある中学校の実践発表を聞く機会がありました。その学校は、当時はいわゆる荒れた学校で、学力も市内で最下位だったといえます。そこに文科省から「特別支援教育」の研究指定を依頼され、初めは仕方なく受けたそうです。特別支援教育の理念(凸凹を生かす)やノウハウ(特性の把握の仕方や指導法)を基に、全校の生徒一人一人の教育的ニーズを把握することに力を入れ、どの生徒にも分かる授業、心に届く生徒指導を心がけていったところ、年々学力が向上し、4年後は市でダントツのトップになり、さらに日々の指導の中でも教師が大きな声を出すことがなくなったとのことでした。

本市においても、生徒の一人一人の認知スタイル(視覚優位タイプか聴覚優位タイプか、全体像から細部に入っていく方がわかりやすいタイプか、一つ一つのことを順番に説明し全体像を掴ませた方がわかりやすいタイプか・等)を丁寧に教師が把握し、それを踏まえながら指導にあたった中学校がありました。その結果、昨年度の福島県学力調査の数学において市内の中学校で一番点数が伸びたと聞いています。

本市においては、学力向上のために非認知能力の向上や自己有用感をもたせるような指導を強調しています。そのためには、教師が特別支援教育の観点を参考に一人一人の凸凹を把握し、それを学校生活で生かせるような機会を意図的に作ることで子どもたちの主体的な学びを促せると思います。

このように特別支援教育を充実させることは、障がいの有無にかかわらず、学力の向上や不登校対策も含めた積極的な生徒指導にもつながります。



研修主任研修より

「主体性を尊重した学び」「『現場の経験』を重視した学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」を探究するにあたって、「令和の日本型学校教育」を担う教師には「研修観の転換」が求められています。そこで今年の研修主任研修の前半は、研修主任の先生方による協働的な学びを促しながら、校内研修の充実に向けて講義・演習を行いました。学校と規模に合わせた3～4人の小グループでこれまで研修主任として取り組まれた上での成果課題について協議するとともに、それぞれが個人で中教審の「『令和の日本型教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現についてのまとめ」の資料を読み取り、「よい校内研修とはどのようなものか」について話し合いながら学びを深めました。研修主任の先生方、ぜひ今回の研修で得た新たな学びを校内研修に生かしていきましょう。

研修の後半では、「データ活用サイクルを回すための研修主任の役割～学校カルテ(学校・学級ダッシュボード)の活用を通して～」という演題で講義・演習を行いました。PwCコンサルティング合同会社より「学校カルテ(学校・学級ダッシュボード)」の見方について紹介がありました。研修者は実際に端末を操作しながら学校カルテの見方を学びました。各校においても、エビデンスに基づいた児童生徒の実態把握を行い、学校の強みや課題を分析し、授業改善に向けた手立てを学校全体で考える校内研修を進めていただきたいと思います。

